

【主題名】 みんなにある よいところ		【教材名】 「ぼくは小さくて白い」 （「いきるちから1」 日本文教出版）	
【個性の伸長】 低A-（4）			
【本時のねらい】 真っ白なペンギンの思いとお母さんが伝えたよさを比較することを通して、自分にも同じようによいところがたくさんあることに気づき、自分の特徴やよさを見つけて、これからもそれを大切にしていこうとする心情を育てる。			
【指導の要点】 友達との違いや劣っている、できないと考えていることでも、見方を変えたり、他者からの評価を受けたりすることでそれが自分にしかないよさにもなり得ることを理解し、誰にでもよいところがあることや、自分の長所にできるだけ多く気づき、大切にしていこうということについて考えを深めさせる。			
【主題に関わる児童の実態】		【授業を通して引き出したい児童の考え】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に学習した「あなたってどんな人？」では、友達や先生方からよいところを見つけて教えてもらうことで、うれしい、よかったという思いが残ったが、新たな自分のよさや特徴に気付くところまでは深まらなかった。その後、この学習をきっかけに、よい行動や頑張っていることをカードに書いて相手に伝える「よいところ見つけ」やハッピーレターに取り組んできた。その結果、第2回目の「道徳意識調査」では、「自分には、よいところがあると思う。」の項目において、肯定的回答率が82.4%となり、第1回目より上昇した。しかし、「よいところがない。」と思いついでいる児童もいる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・できないことや苦手と思っていることでも、自分にとってよいところにもなるんだ。</li> <li>・だめだなと思っていたことも、お家の人に褒めてもらえてよかった。</li> <li>・お家の人には、ぼくのことを大切に見てくれていたんだ。</li> <li>・一人一人みんなによいところは必ずあるんだ。</li> <li>・人とは違うところがあってもいいんだ。</li> <li>・これからも、よいところを見つけないし、大事にしていきたいな。</li> <li>・苦手なところは、少しずつ頑張っていこう。</li> </ul>	
指導上の工夫		板書計画	
自分自身との関わりで考えるための工夫	・保護者からの手紙を読むことで、自分のよいところについて改めて見つめられるようにする。	<p>だいたい○かい ぼくは小さくて白い お母さん 小さくて真っ白くかっくんぽでーばんに はしるのおおせいだけかごうんだ らおこせる 大ぞらをとべない↓水の中をどぶよう におよげる。 大きくなりたいうううううううう 大きなころをもてる</p> <p>どうしてお母さんははじめていたの？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すきだから</li> <li>・いつも見てくれているから</li> <li>・大せつにおもっている</li> <li>・しんじている</li> <li>・一人一人かならずよいところがある。</li> <li>・なやみ・ちがうところ</li> <li>・よいところになる</li> </ul> <p>お母さんのよいところについてかんがえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんのいいたいことをつたえることは、すばらしい。</li> <li>・ゆっくりだけど、いつもまわりのことを気にかけている。</li> <li>・いつもげん気。</li> <li>・ふりかえり</li> <li>・うれしい</li> <li>・ほめてくれたところよいところ</li> <li>・じぶんによいところがある。</li> <li>・大じしよう</li> <li>・にが手なところはがんぼつていこう</li> </ul>	
多面的・多角的に捉えるための工夫	・真っ白なペンギンの思いとお母さんが考えているよさを比較し、他の人と違うことでも、その人のよさにつながることに気付かせる。		
授業の評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのちがいや、短所と思っていることが長所になることに気付かせられるような声かけや問いかけがあったか。（自分自身）</li> <li>・児童が気付かなかった自分のよいところについて、気付かせるような声かけや問いかけがあったか。（多面的・多角的）</li> </ul>		
児童の評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見や保護者の手紙から自分の良さについて考えようとしていたか。（自分自身）</li> <li>・他人と違っていたり苦手としたりしていることでも、見方を変えればよさにつながるなど、よいところについて様々な視点から考えようとしていたか。（多面的・多角的）</li> </ul>		

【学習指導過程】

	学習活動と主な発問（○）、補助発問・問い返し（◆）、留意事項（・）	予想される児童の反応
	1. 教材の登場人物を知る。（2分） ・ペンギンのぬいぐるみ（白黒）と登場人物のペンギンの挿絵を比べ気付いたことを問い、教材への興味付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色が違うよ。</li> <li>・なんだかさみしそう。</li> <li>・何を思っているのかな。</li> </ul>
展開	2. 教材の範読を聞く（5分） ・挿絵を紙芝居のように範読し、白いペンギンの思いに共感できるようにする。  3. 教材について話し合う。（10分） ○お母さんは、ぼくがどうしてかなあと思っていることにどう答えてくれましたか。 ・ぼくの思いとお母さんが伝えたよさを板書で比較し、特徴のとらえ方の違いに気付かせる。  ◎どうしてお母さんは、ぼくのよいところをたくさん知っていたのでしょうか。 ◆みんなと違うことは、かなしい（いやな）ことなんじゃないの？ ・人と違うことはだめなことではないことや、一人一人によさが必ずあるということに気付かせるようにする。  4. 自分のよいところについて考える。（18分）  自分 <small>の</small> よいところについてかんがえよう。  ○みんなにもペンギンみたいに、どうしてかなあ、友達とちがうなあとと思っていることはありますか。 ○みんなのお家の人には君たちをどう見ているのだろう。お手紙が届いているから渡します。 ・オルゴールのBGMを流し、温かい雰囲気づくりをする。 ・一人で読めない児童と一緒に読むなどの支援をする。 ○自分が知らなかったことや気付かなかったことを書いてくれていた人はいますか。 ○自信がないところを褒めてくれていた人はいますか。 ○自分のよさを書いてくれていた人はいますか。 ・よさを見る視点が広がるような声かけをする。	ぼく→おかあさん <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さくて真っ白→かっくんぽで一番になれる</li> <li>・走るのが遅い→誰かが転んだら起こせる</li> <li>・大空を飛べない→水の中を泳ぶように泳げる</li> <li>・大きくなりたい→勇気をもてば大きな心もてる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくのことを好きだから。</li> <li>・ぼくをいつも見てくれているから。</li> <li>・ぼくのことを大切に思っているから。</li> <li>・よいところがたくさんあると信じているから。</li> <li>・他のペンギンと違っていても、お母さんの目から見ればよいところになるんだね。</li> <li>・他の人と違っていてもいいよ。</li> <li>・ぼくはぼく、自分は自分だから。</li> <li>・一人一人みんなによいところは必ずあるんだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の言いたいことを相手に伝えることは素晴らしいことなんだ。</li> <li>・ゆっくりだけど、いつも周りのことを気にかけていると教えてくれたよ。</li> <li>・いつも元気と書いてくれていたよ。</li> <li>・今まで気付かなかったよいところが見つかって嬉しいな。</li> </ul>
終末	5. 本時の振り返りをする。（10分） ○今日気付いた自分のよいところや、思ったこと、考えたことを書きましよう。 ・よいところを見つけれられた嬉しさを交流し、これからもよいところを見つけ、大事にしていきたいという思いを高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お家の人によいところを見つけてもらえてうれしい。</li> <li>・お家の人からほめてくれたことは、自分のよいところだな。</li> <li>・自分にはこんなよいところがあるんだ。</li> <li>・自分のよいところに気付いてよかったなあ。大事にしよう。</li> <li>・苦手なところは、少しずつ頑張っていこう。</li> </ul>